

## 2-5 災害等のリスク

### (1) 斜面市街地

中心市街地を取り巻く周辺部には、市街地形成の過程で住宅地として開発されてきた斜面市街地が形成されています。傾斜角 15 度以上の区域にある建物数を見てみると、市域全体で 7,740 棟あり、建物総数（125,842 棟）の 6.2%にあたります。

一方、市街化区域内においては、傾斜角 15 度以上の区域は限定的なものとなっています。また、ある程度の範囲では、緊急車両等の進入可能な幅員 6m 以上の道路が一定確保されていますが、古くからの住宅地では狭い道が入り組んだ状況となっています。

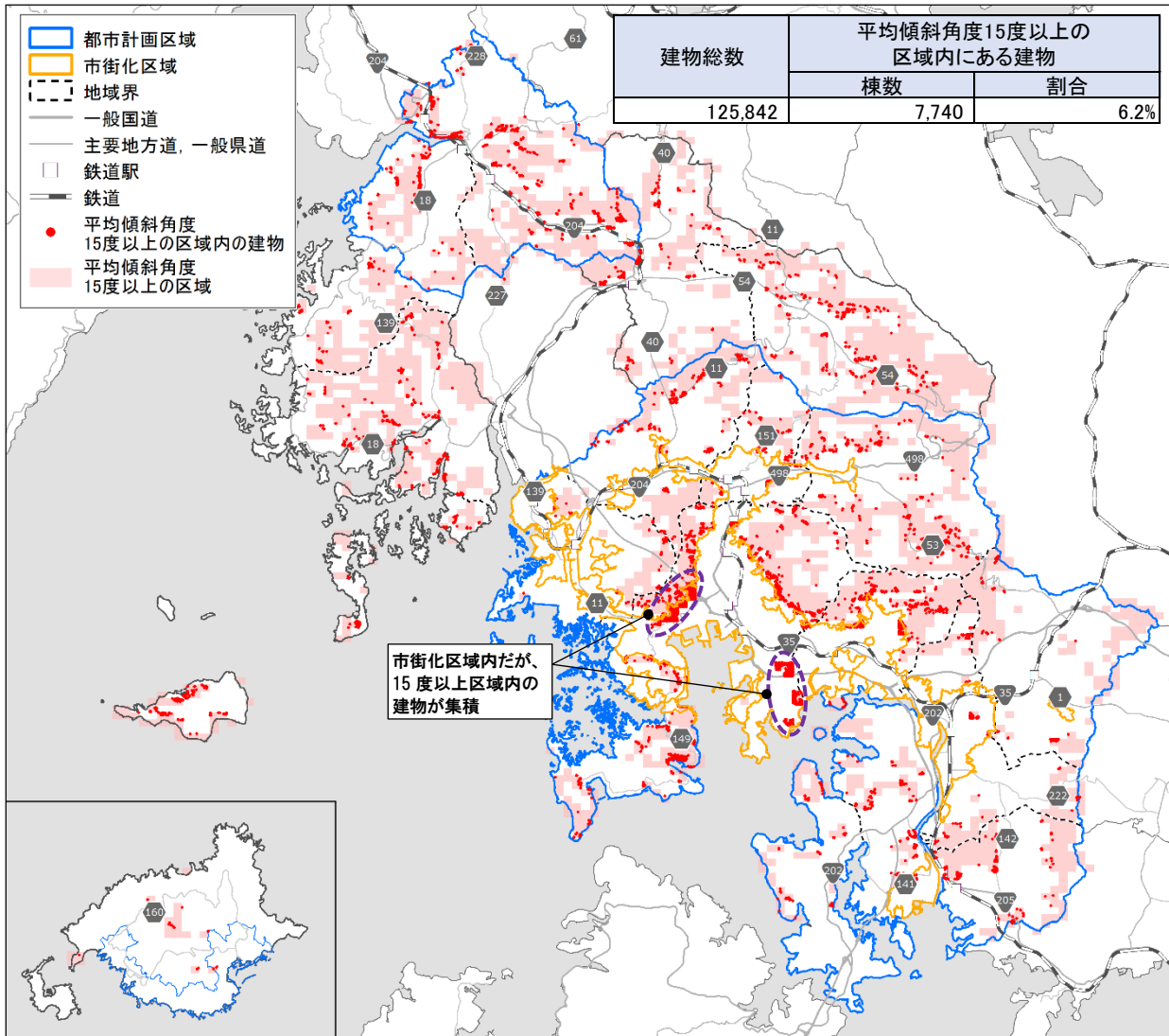


図 斜面市街地の状況

出典：国土数値情報(標高・傾斜度 5 次メッシュ(250m メッシュ)、平成 29 年度 都市計画基礎調査(建物用途現況)

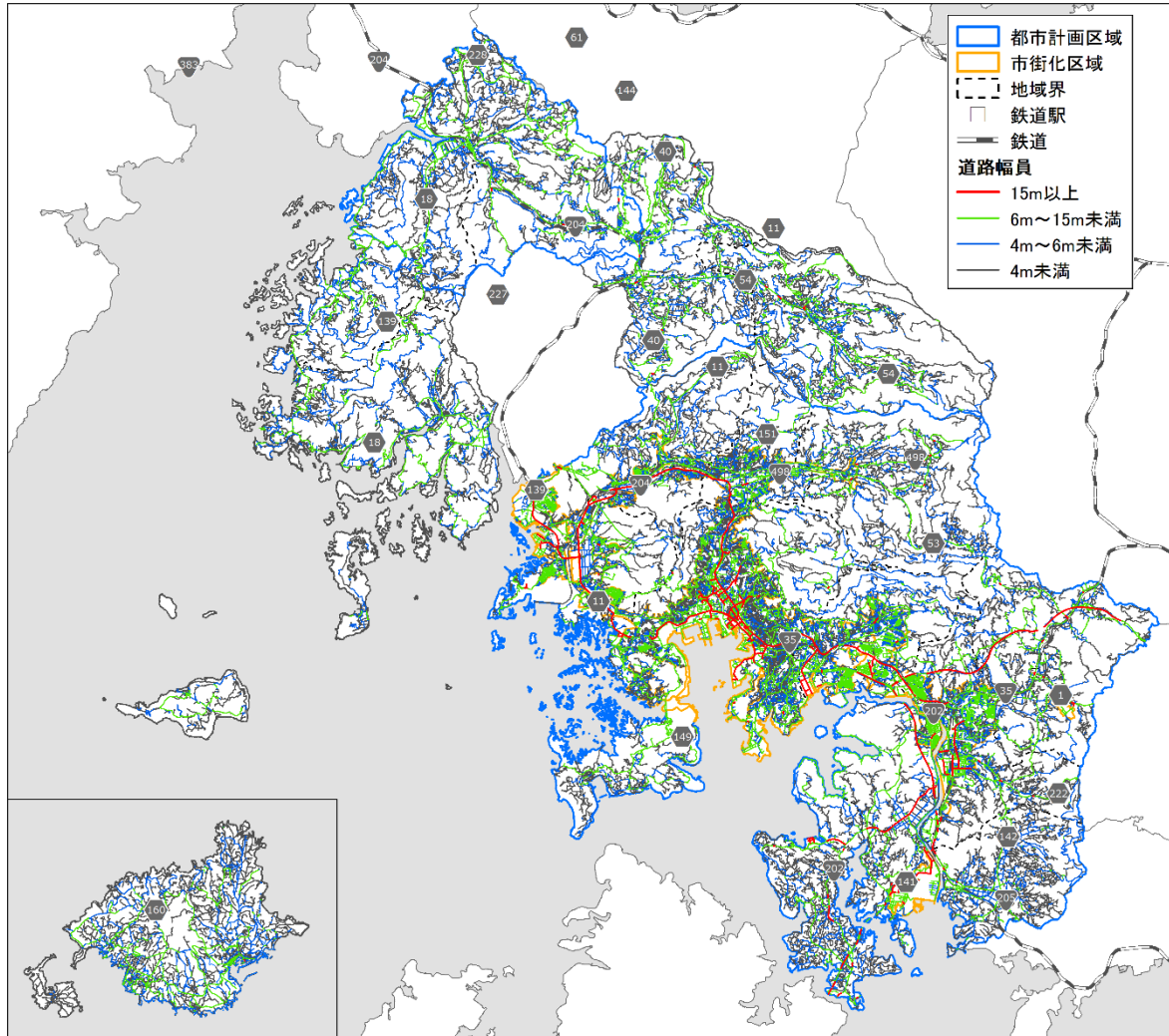


図 道路幅員現況

出典：平成 29 年度 都市計画基礎調査(道路現況)

## (2) 火災(消防活動困難地域)

市域全体で消防活動困難区域内にある建物は1,303件で、建物総数の1%にあたります。

地域別に見ると、佐世保中央、相浦、黒島、江上、江迎の順で多く分布しています。建物の割合では黒島が11%となっています。

なお、市街化区域内においては、緊急車両等の進入可能な幅員6m以上の道路が一定確保されていることなどから、消防活動困難区域は概ね解消されている状況にあります。

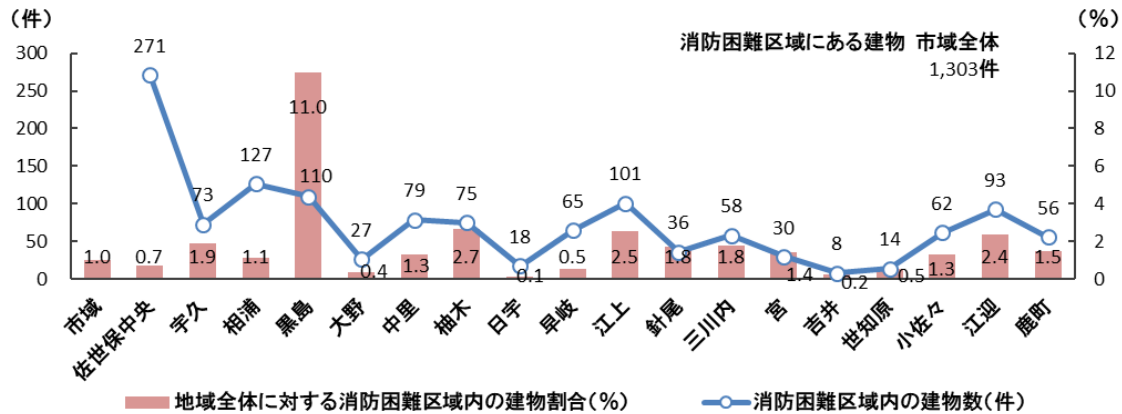


図 消防困難区域内にある建物数・割合

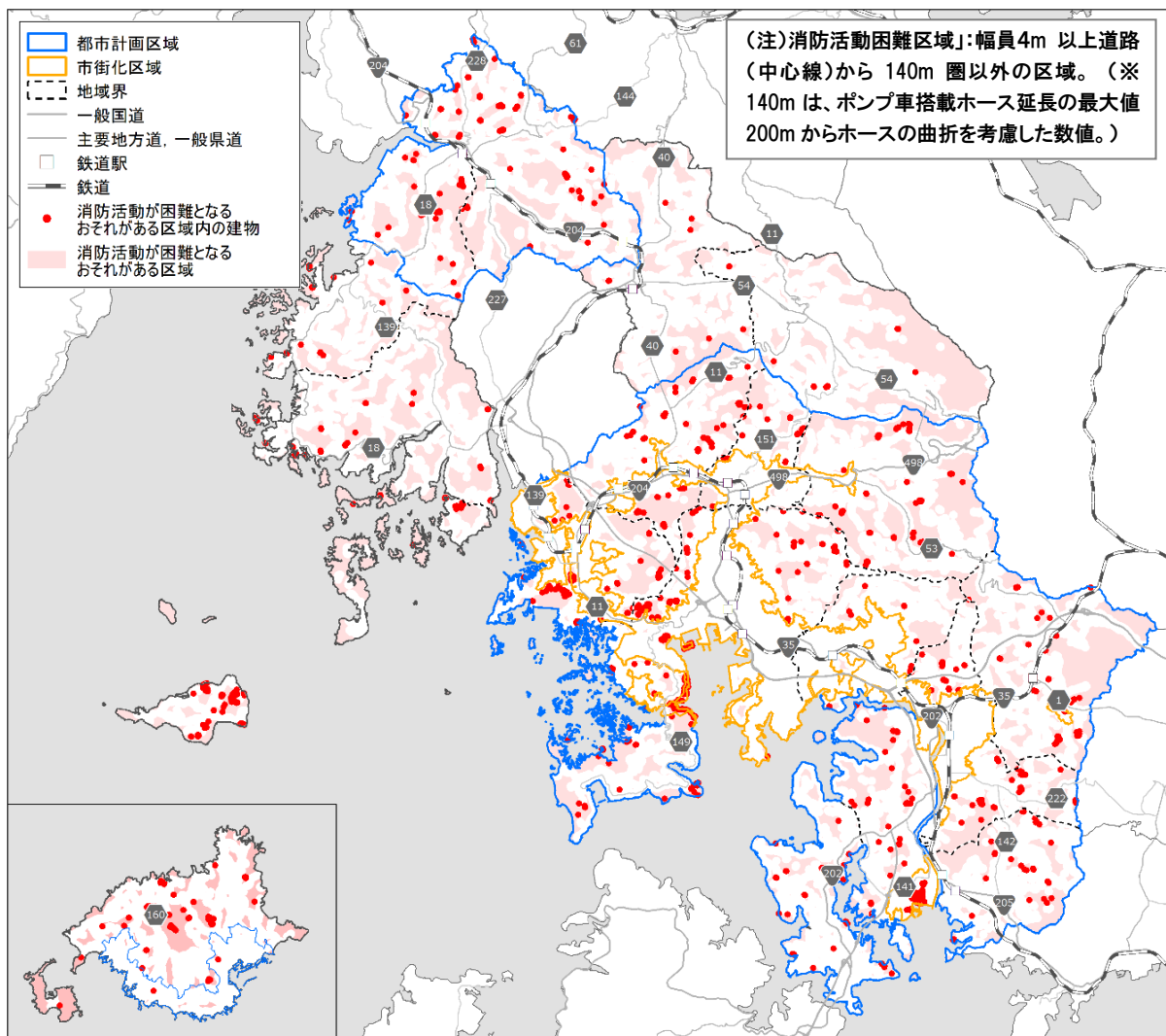


図 消防活動困難区域

出典：都市計画基礎調査（道路現況、建物現況）

### (3) 土砂災害

#### ① 土砂災害警戒区域等

土砂災害警戒区域（土砂災害のおそれがある区域）、土砂災害特別警戒区域（建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがある区域）をみると、いずれも市域全体において広く分布している状況にあります。

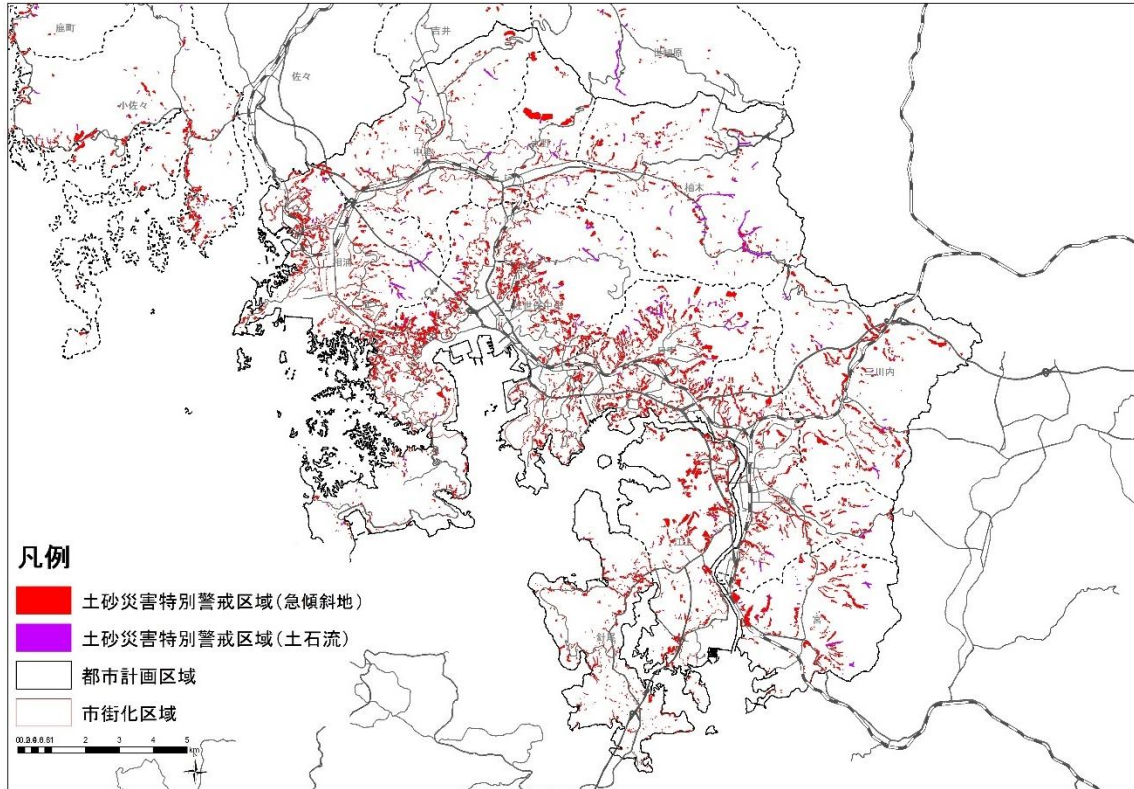


図 土砂災害特別警戒区域

出典：長崎県総合防災GIS

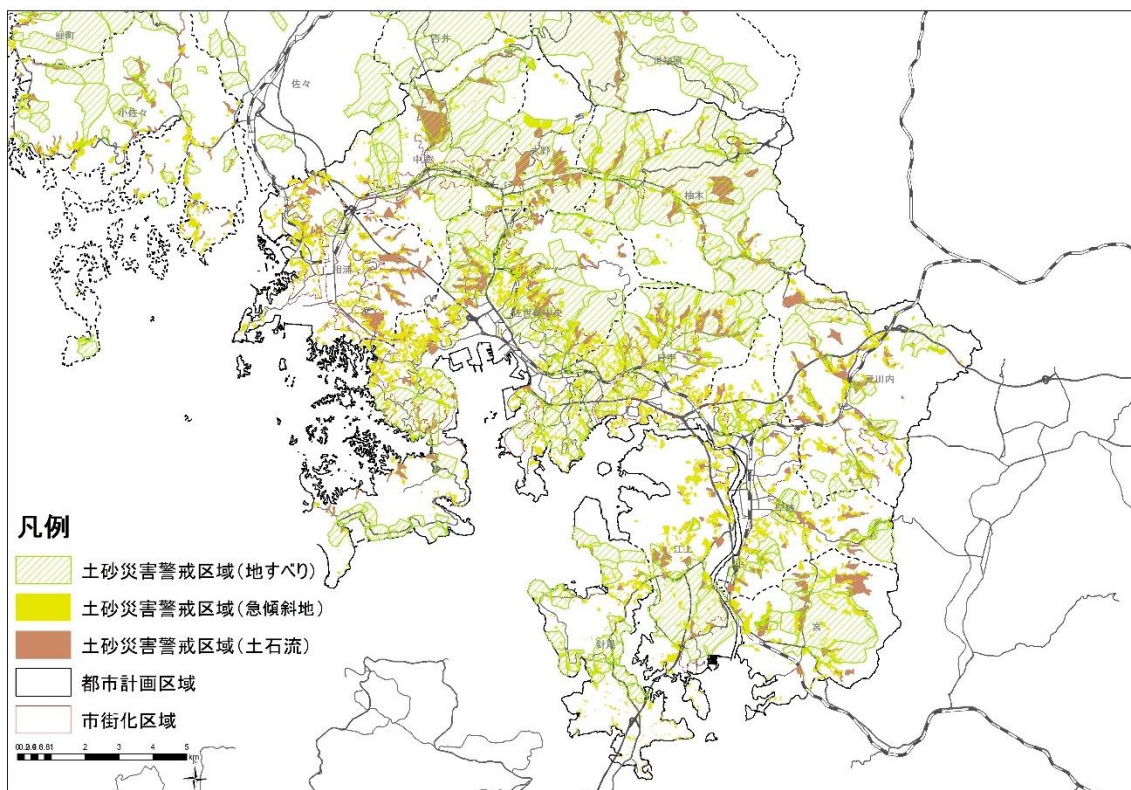


図 土砂災害警戒区域

出典：長崎県総合防災GIS

## ② 急傾斜地崩壊危険区域

急傾斜地崩壊危険区域（傾斜度 30 度以上、高さ 5メートル以上の急傾斜地で人家に被害を及ぼす恐れのある箇所）をみると、相浦地域や佐世保中央地域の斜面住宅地など市域全体において点在しています。そのうち一部の区域においては、急傾斜地の対策が概成しています。

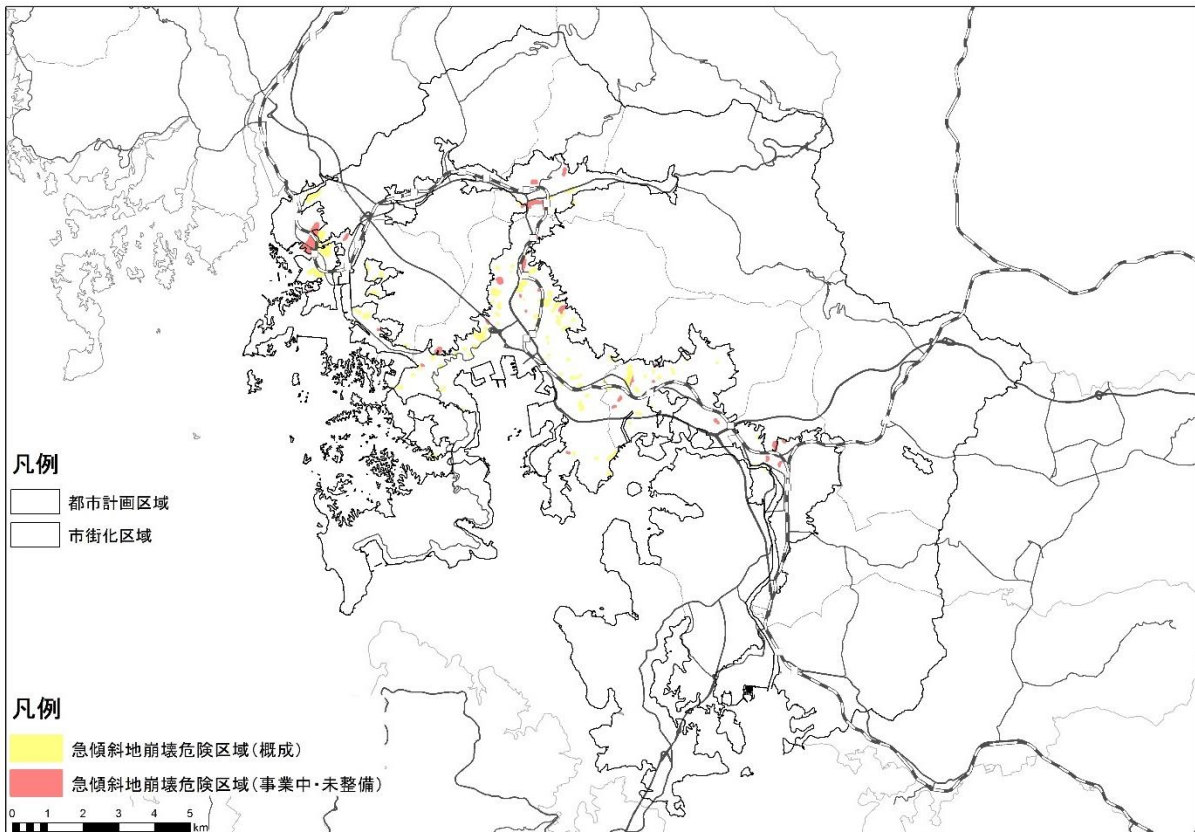


図 急傾斜地崩壊危険区域

出典：長崎県総合防災GIS

### ③ 地すべり防止区域

地すべり防止区域（地すべりしている区域又は地すべりするおそれのきわめて大きい区域、及び隣接する地域のうち地すべりを助長・誘発するおそれのきわめて大きいもので、公共の利害に密接な関連を有するもの）をみると、柚木等の山間部を中心に市域全体の広範囲に分布しています。

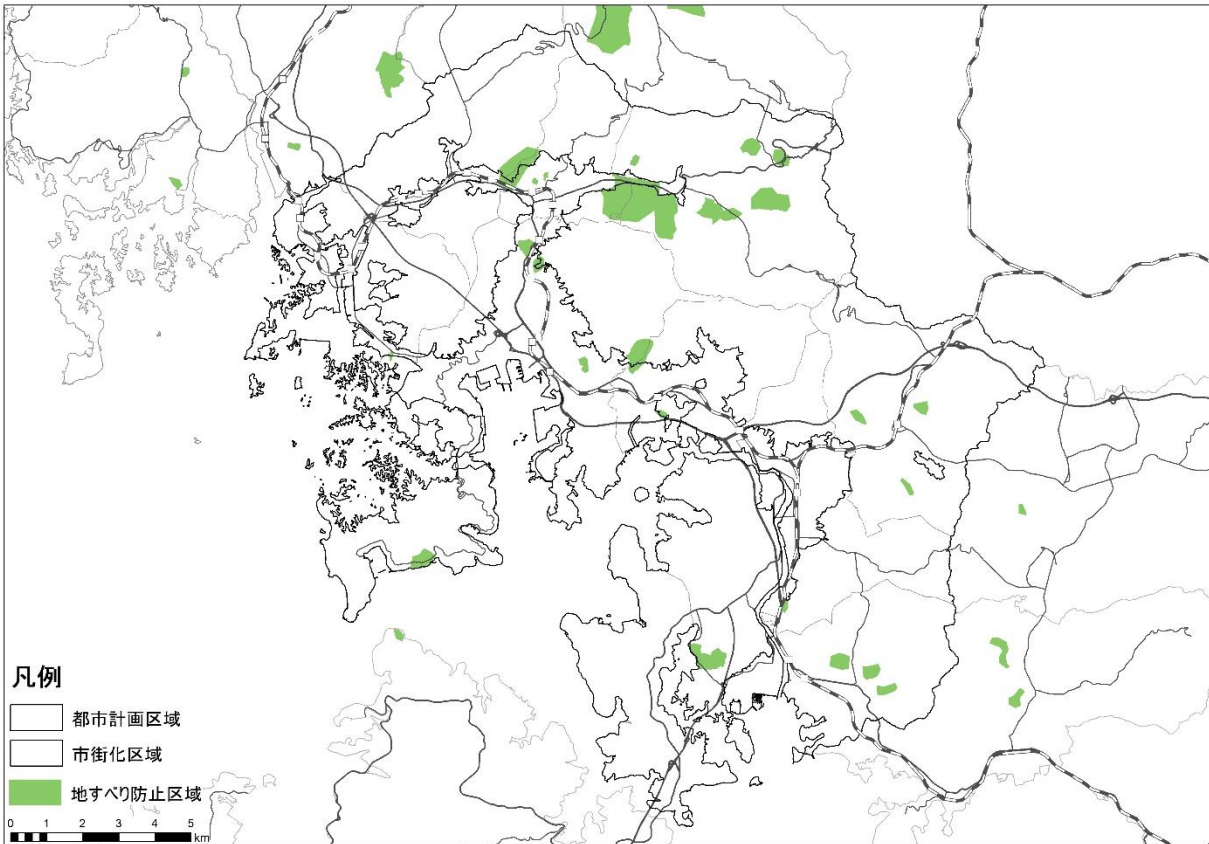


図 地すべり防止区域

出典：長崎県総合防災GIS

## (4) 洪水浸水

### ① 最大想定規模

本市は河川に沿った限られた平地を中心に市街地が形成され、想定される最大規模の降雨が発生した場合には、洪水による浸水が想定される場所が広く存在しています。この情報に基づき、河川ごとにハザードマップを作成し、市民の皆様には大雨による災害が発生する場所や状況を日頃から把握し、雨の状況等に注意して、危険を感じたら早めに避難することを呼びかけています。

「想定最大規模」の降雨規模は 1000 年に 1 回程度を想定しています。1000 年毎に 1 回発生する周期的な降雨ではなく、1 年の間に発生する確率が 1/1000(0.1%)以下の降雨です。毎年の発生確率は小さいですが、規模の大きな降雨であることを示しています。

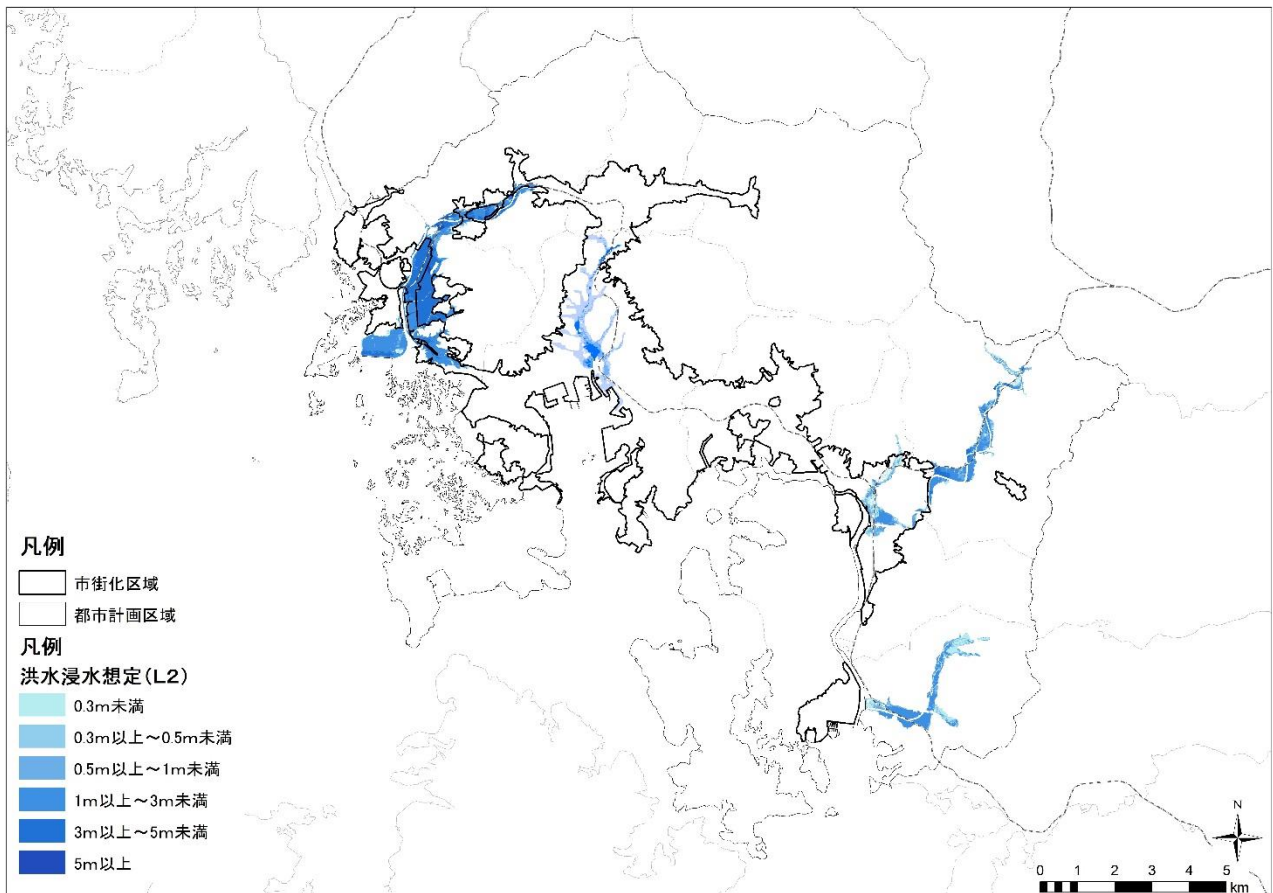
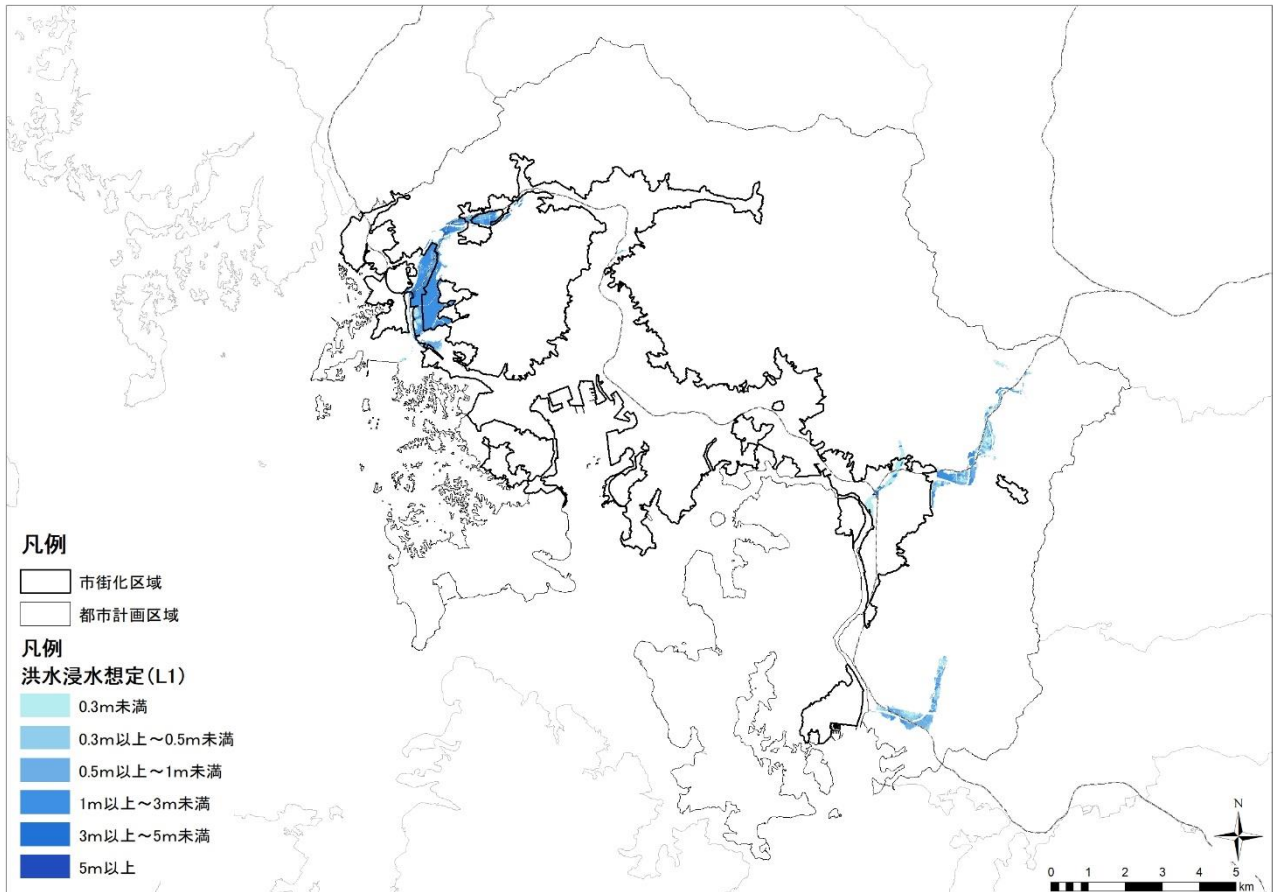


図:洪水浸水想定区域図(最大想定規模)

## ② 計画規模

河川整備等を行う際に考慮する計画規模の降雨が発生した場合に洪水による浸水が想定される場所が複数存在しています。計画規模の降雨は、河川の状況や災害発生状況等を考慮して発生確率を定めるものとされており、30年～100年に1回程度の降雨規模を想定したものです。佐世保川では浸水が想定される区域は部分的にしかありませんが、相浦川や早岐川等の流域では浸水想定区域が一定存在します。



図：洪水浸水想定区域図(計画規模)



### ③ 近年の降雨状況

佐世保市内における平成28年から令和2年の降雨状況は、下表の通りとなっており、1時間あたり20mmを超える雨が年平均10.4回、1日あたり80mmを超える雨が年平均4.4回降っています。

集中的に降った最大雨量について、1時間雨量は平成30年の85.5mm、2時間雨量は平成30年の113.0mm、3時間雨量は令和2年の132.0mm、24時間雨量は令和2年の341.5mmが、期間のうちの最大となっています。

	20mm以上/h (回)	80mm以上/d (回)	60分最大雨量 (mm)	2時間最大雨量 (mm)	3時間最大雨量 (mm)	24時間最大雨量 (mm)
平成28年	16	8	52.5	79.0	101.0	301.0
平成29年	8	2	63.0	69.0	74.5	170.5
平成30年	7	3	85.5	113.0	131.0	333.5
令和元年	6	3	45.5	68.0	85.8	330.5
令和2年	15	6	81.5	97.5	132.0	341.5
<b>平均</b>	<b>10.4</b>	<b>4.4</b>	<b>65.6</b>	<b>85.3</b>	<b>104.9</b>	<b>295.4</b>

出典：雨量記録\_時間降雨量表（土木部河川課）から作成

一方、前述の最大想定規模、計画規模の降雨量について、対象河川ごとに下表の通り定めており、河川によっては計画規模に近い降雨が発生しているものの、現時点においては、最大想定規模に迫る降雨は発生していない状況となっています。ただし、近年、線状降水帯など集中的に激しい雨が継続的に発生する事例が全国的に増加しており、雨の降り方を注視し、早めの避難等の対応が強く求められます。

	相浦川	佐世保川	早岐川・小森川
計画規模	1/100確率	1/100確率	1/100確率
	402mm/24h 157mm/2h	209mm/3h	早岐川：630mm/24h 小森川：416mm/24h
最大規模	1/1000確率	1/1000確率	1/1000確率
	987mm/24h 349mm/2h	375mm/3h	1,067mm/24h

表：洪水ハザードマップ作成時の大雨の規模

## (5) 津波浸水

津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生ずるおそれがあり、津波災害を防止するために警戒避難体制を特に整備すべき区域として指定されている津波災害警戒区域をみると、特に、江迎川や相浦川、佐世保川、日宇川の下流、江上地区の低平地において面的に広がって存在しています。

ただし、長崎県の津波浸水想定(第2版)によると、南海トラフ地震の影響開始時間は156分、最大津波到達時間は306分とされており、地震発生後、津波が到達するまでに浸水想定区域外等に避難することが可能と考えられます。

なお、現時点では、県内において、津波災害特別警戒区域(最大クラスの津波が発生した場合に、建築物が損壊又は浸水し、住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずる恐れがある区域)の指定はありません。

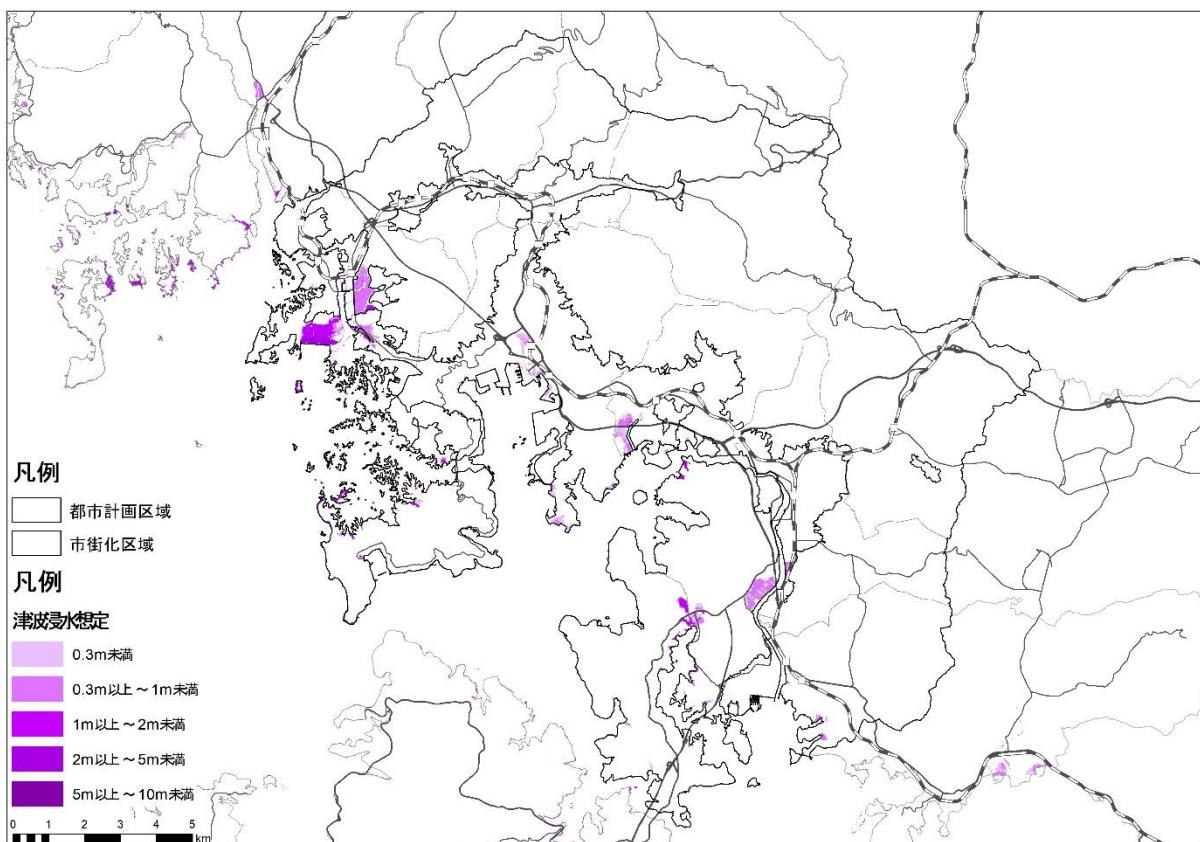


図 津波災害警戒区域

出典：国土数値情報

## 2-6 財政の状況

### (1) 歳入・歳出

本市の歳入は近年横ばいで推移しており、平成30年度で1,234億円程度となっています。

歳出は、義務的経費が増加傾向にあります。公債費、人件費以外の義務的経費（その他）は、社会保障に係わる経費であり、今後、後期高齢者数の増加が見込まれるなか、投資的経費は今後一層厳しくなることが予想されます。

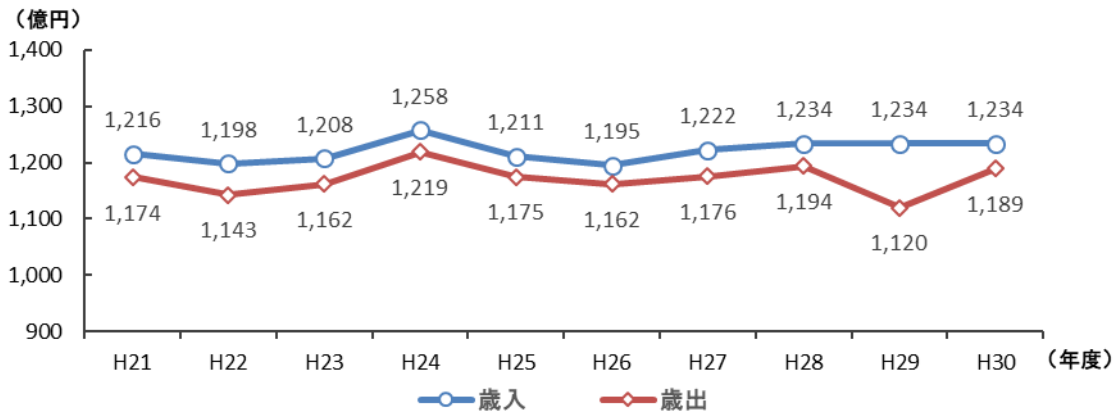


図 歳入・歳出状況

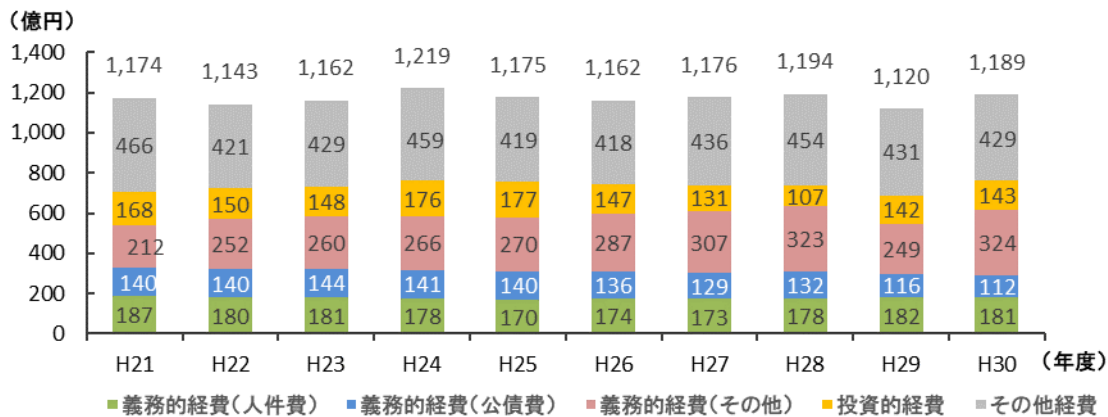


図 歳出の内訳

出典：佐世保市財政白書

## (2) 公共施設

本市の公共施設の約半数は建築後 30 年以上が経過しており、老朽化が進んでいます。

これらの施設は、今後一斉に更新時期を迎えることになり、将来更新費用試算結果によると、施設の老朽化に伴う建替え等に要する経費は、今後 40 年間に於いて年度平均約 114.4 億円と試算されており、多額の更新費用が必要となることを見込まれます。

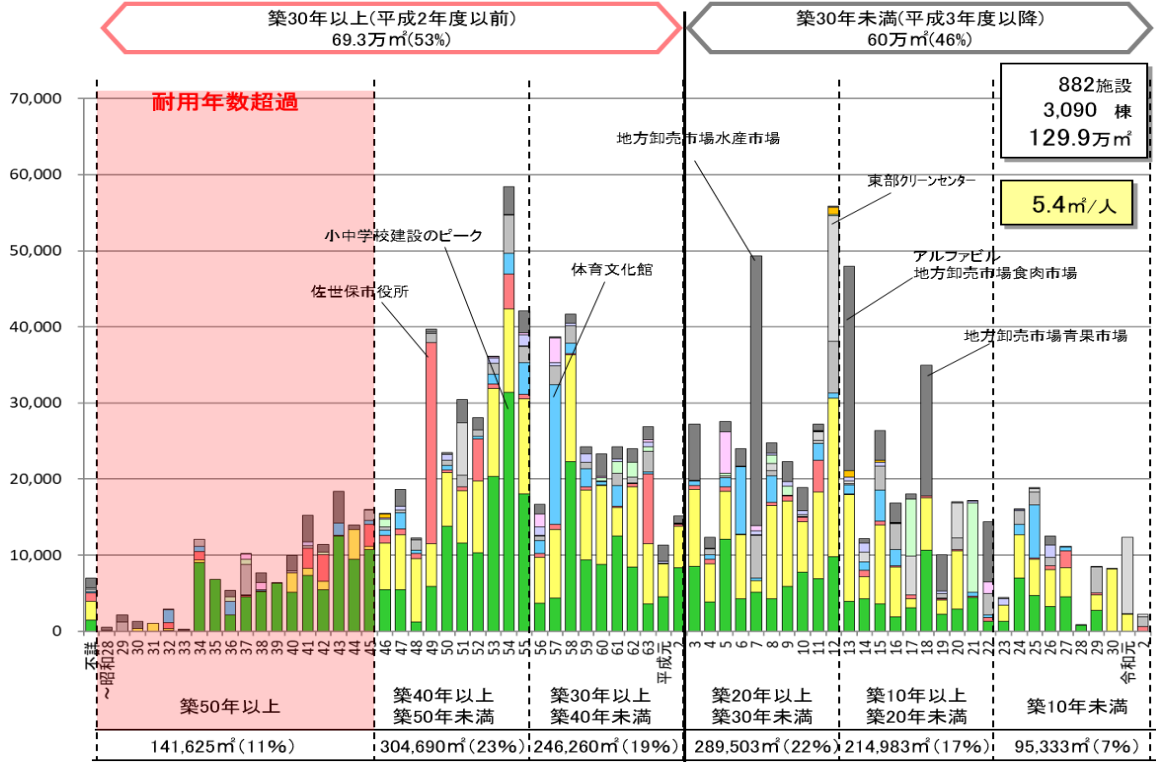


図 公共施設の築年別整備状況(2021年3月末現在)

出典：佐世保市公共施設適正配置・保全実施計画（第2期）令和4年3月

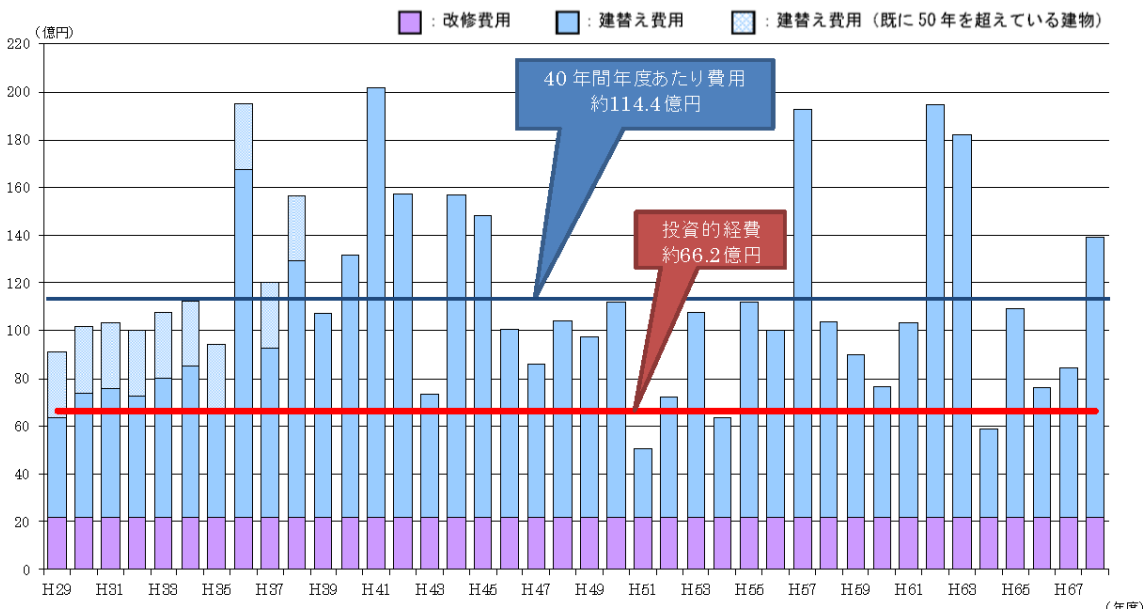


図 将来更新費用試算(公共施設)

出典：佐世保市公共施設等総合管理計画